

平成 18 年度厚生労働科学研究費補助金  
子ども家庭総合研究事業

健やか親子 21 の推進のための情報システム構築  
および各種情報の利活用に関する研究

平成 18 年度 総括・分担研究報告書

平成 19 (2007) 年 3 月

主任研究者

山梨大学大学院

医学工学総合研究部社会医学講座

教授 山縣 然太郎

# 目次

## I. 総括研究報告書

健やか親子 21 の推進のための情報システム構築および各種情報の利活用に関する研究 山縣然太郎	2
--	---

## II. 分担研究報告書

1. 2006 年度における健やか親子 21 公式ホームページの展開 薬袋淳子、吉岡名保恵、山縣然太郎	16
2. 「健やか親子 21」ホームページの 「取り組みのデータベース」登録事業の「セレクト 2006」について 山縣然太郎、松浦賢長、薬袋淳子、尾島俊之、鈴木孝太、田中太一郎、玉腰浩司 長瀬博文、仲宗根正、山崎嘉久、渡辺多恵子	19
3. 母子保健・医療情報データベース 7年のあゆみ 山田七重、山縣然太郎	25
4. 母子保健計画策定体制に関する因子と現在の母子保健活動の取り組み 尾島俊之、福永一郎、藤内修二	40
5. 「健やか親子 21」推進の効果に関する研究 ～次世代育成支援行動計画策定プロセスの母子保健対策等へ及ぼす影響～ 櫃本真聿、藤内修二、岩室紳也、尾崎米厚、福永一郎、澁谷いづみ、犬塚君雄 糸数 公、尾島俊之、笹井康典、田上豊資、端谷 毅、日隈桂子、土屋厚子 福田展之、福島富士子	44
6. 「健やか親子 21」推進の効果に関する研究 ～思春期対策の現状と変遷～ 端谷 毅、藤内修二、岩室紳也、尾崎米厚、櫃本真聿、糸数 公、尾島俊之 澁谷いづみ、犬塚君雄、笹井康典、田上豊資、土屋厚子、日隈桂子、福永一郎 福田展之、福島富士子	51
7. 市町村健やか親子 21 策定における住民、住民組織・関係機関との 関わりと策定後の実際の取り組みにおける関連 福永一郎、藤内修二、岩室紳也、尾崎米厚、櫃本真聿、澁谷いづみ、犬塚君雄 糸数 公、尾島俊之、笹井康典、田上豊資、端谷 毅、日隈桂子、土屋厚子 福田展之、福島富士子	57

8. 「健やか親子 21」推進の効果に関する研究 ～市町村の妊娠期・乳幼児期への支援等の取り組みが母親のQOLに及ぼす効果～	73
<p>福田展之、藤内修二、岩室紳也、尾崎米厚、樫本真聿、福永一郎、澁谷いづみ          犬塚君雄、糸数 公、尾島俊之、笹井康典、田上豊資、端谷 毅、日隈桂子          土屋厚子、福島富士子</p>	
9. 「健やか親子 21」推進の効果に関する研究 ～県型保健所の支援が市町村の「健やか親子 21」推進に及ぼす影響～	82
<p>藤内修二、岩室紳也、尾崎米厚、樫本真聿、福永一郎、澁谷いづみ、犬塚君雄          糸数 公、尾島俊之、笹井康典、田上豊資、端谷 毅、日隈桂子、土屋厚子          福島富士子</p>	
10. 市町村別合計特殊出生率の規定要因の検討 ～市町村の母子保健活動との関連に着目して～	88
<p>尾崎米厚、福永一郎、尾島俊之、岩室紳也、藤内修二</p>	
11. 「健やか親子 21」推進の効果に関する研究 ～地域における母子保健活動の評価に関する研修会～	102
<p>藤内修二、岩室紳也、尾崎米厚、樫本真聿、福永一郎、澁谷いづみ、犬塚君雄          糸数 公、尾島俊之、笹井康典、田上豊資、端谷 毅、日隈桂子、土屋厚子          福田展之、福島富士子</p>	
12. 市町村における母子保健データの収集・利活用状況	108
<p>田中太一郎、岡村智教、山縣然太朗</p>	
13. 母子保健情報の収集と利活用のためのツールの開発	134
<p>田中 太一郎、鈴木 孝太、松浦 賢長、山崎 嘉久、尾島 俊之、谷原 真一          山中 龍宏、栗袋 淳子、山縣 然太朗</p>	
14. 愛知県知多半島エリアにおける乳幼児健診の 個別データ集積システムモデルの構築に関する研究	147
<p>山崎嘉久、松浦賢長、田中太一郎、加藤恵子、北野淑恵、山本田鶴子          川合美穂子、竹市由紀子、後藤文枝、柘植由美、北川美香、水野歩美          澤田光江、松田由佳</p>	
15. 保健所における個別健診情報の利活用に向けての支援	156
<p>玉腰浩司、和田恵子、栗本洋子、山本田鶴子、川合美穂子、竹市由紀子          北野淑恵、田中太一郎、山崎嘉久</p>	
16. 母子保健情報の利活用をめざしたシステムの展開について —蓄積データからの検討を試みて—	162
<p>山本田鶴子、川合美穂子、竹市由紀子、栗本洋子、加藤 基、山崎嘉久          玉腰浩司、和田恵子、田中太一郎</p>	

17. 松浦分担班まとめ	
— 母子保健情報の利活用をめざした全国システムの展開に関する研究 —	167
松浦賢長、 田中太一郎、 山崎嘉久、 山縣然太郎	
18. 親子の社会的健康度を育むための支援に資する	
乳幼児問診項目の開発に関する研究	172
渡辺多恵子、 鈴木 茜、 佐藤千織、 甲斐友佳、 田中太一郎、 山崎嘉久	
松浦賢長、 山縣然太郎	
19. 親子の社会的健康度を育むための支援に資する乳幼児健診問診項目	
— 学術的事項・エビデンスに関わる事項の集積 —	181
佐藤千織、 渡辺多恵子、 鈴木 茜、 甲斐友佳、 三國和美、 松浦賢長、 山縣然太郎	
20. 親子の社会的健康度を育むための支援に資する	
乳幼児健診項目の開発に関する研究	191
甲斐友佳、 渡辺多恵子、 佐藤千織、 鈴木 茜、 田中太一郎、 山崎嘉久	
松浦賢長、 山縣然太郎	
21. 親子の社会的健康度を育むための支援に視する乳幼児健診問診項目	
～事故予防項目 20 の開発～	194
鈴木 茜、 渡辺多恵子、 佐藤千織、 甲斐友佳、 竜岡久枝、 松浦賢長	
山崎嘉久、 山中龍宏、 山縣然太郎	
22. 親子の社会的健康度を育むための支援に資する幼児期健康支援に関する問診項目	
— 問診項目の試作と学術的事項・エビデンスに関わる事項の検討 —	203
下園美保子、 山口智佳子、 小松原かおり、 安田 梓、 内田 薫	
山野恵美子、 松浦賢長、 山縣然太郎	
23. 親子の社会的健康度を育むための支援に資する	
乳幼児健診・問診項目の開発に関する研究	
～食育の観点からみた幼児の生活習慣と親の知識・意識の関連～	216
久野一恵、 真名子香織、 松浦賢長、 山縣然太郎	
24. 親子の関係性・環境・子育て支援のための質問項目「山縣班 50」の開発	
— 幼児期における遊びを中心とした生活習慣の相互関連に関する研究 —	232
真名子香織、 久野一恵、 松浦賢長、 山縣然太郎	
25. 保護者保有型母子保健ガイドブック評価に関する研究	
～印西市におけるリングファイル複写式健診問診票ガイドブック～	247
鈴木 茜、 甲斐友佳、 松浦賢長、 山縣然太郎	
26. 市町村における母子保健情報電算化支援と課題の検討	255
渡辺多恵子、 松田由佳、 田中太一郎、 山崎嘉久、 松浦賢長、 山縣然太郎	

27. 健やか親子 21 の取り組みに関する研究	～分担班まとめ～	……………	265
松浦賢長、山縣然太朗			
28. 健やか親子 21 「マタニティ・マーク」の認知度に関する研究		……………	266
山岡清美、池田愛美、神寶尋子、田辺美由紀、田堀有希、野間裕子 伊藤多恵子、増本綾子、倉本孝子、樋口善之、松浦賢長、山縣然太朗			
29. EPDS 得点の分散と関連因子に関する研究		……………	283
鈴木 茜、竜岡久枝、松浦賢長、山縣然太朗			
30. 思春期保健対策に向けた幼児期支援に関する研究			
～3 歳児をもつ保護者意識と子どもの生活調査から～			
…………… 291			
鈴木 茜、谷川紗知子、高柳貴久子、中野 郁、鈴木牧絵、梅田奈津子 鈴木真理子、松浦賢長、山縣然太朗			
31. 幼稚園における学校保健の現状と課題に関する研究		……………	304
山口智佳子、小松原かおり、安田 梓、松浦賢長、山縣然太朗			
32. 小児の事故による傷害の情報内容に関する検討		……………	306
山中龍宏			
33. 誤飲チェッカー使用状況と誤飲事故経験歴との関係について		……………	310
谷原真一			
34. 妊娠・出産と母子の長期的経過についての縦断研究		……………	317
三砂ちづる、竹原健二、嶋根卓也			
35. 2006 年度 健やか親子 21 メーリングリスト運営状況		……………	361
近藤尚己、鈴木孝太			
36. 第 65 回日本公衆衛生学会学術総会 自由集会			
知ろう・語ろう・考えよう！ “一歩先行く” 健やか親子 21 第 6 回 報告			
…………… 363			
渡辺多恵子、鈴木孝太、田中太一郎、葉袋淳子、尾島俊之、市川香織 長瀬博文、松浦賢長、山縣然太朗			

### Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表	……………	370
----------------	-------	-----

### Ⅳ. 研究成果の刊行物・別刷

研究成果の刊行物・別刷	……………	372
-------------	-------	-----

# I . 総括研究報告書

## 健やか親子 21 の推進のための情報システム構築 および各種情報の利活用に関する研究

主任研究者 山縣然太郎（山梨大学大学院医学工学総合研究部社会医学講座 教授）

**I. 研究目的** 根拠に基づき地域の実情に適した母子保健事業の評価・立案方策の確立のために、母子保健情報の収集と活用について、個別データの集積と活用に重点を置いたシステム（母子保健 MIS（マーケティング・インフォメーション・システム））の構築をめざす。

**II. 研究内容** 1. 「健やか親子 21」の公式ホームページの運営 2. 「健やか親子 21」の中間評価で得られた資料の詳細解析と新たな指標の開発、3. 母子保健 MIS（マーケティング・インフォメーション・システム）の構築 4. 妊娠・出産と母子の長期経過についての縦断研究

### III. 研究結果

1. 公式ホームページの構築と運営：現在合計 45 万件を超えるアクセスがあり、特に、母子保健情報データベースは最もアクセス数が多い。2004 年に取り組みのデータベースの登録事業を精査した「セレクト 100」を掲載し、自治体のメリットを生かした事業情報を全国の市町村母子保健担当者と共有して、健やか親子 21 を推進するために活用している。今回、2004 年以降に登録された事業について同様の検討をおこない、「セレクト 2006」として 43 件の事業を選んだ。

2. 「健やか親子 21」の中間評価でえられた資料の詳細解析と新たな指標の開発：新たな母子保健指標の構築に資するため、平成 17 年度に実施した健やか親子 21 の指標についての全国調査の結果を総合的に解析して母子保健事業の実態を分析、評価した。次の点を明らかにした。①母子保健計画策定体制に関する因子と現在の母子保健活動の取り組み状況、②次世代育成支援行動計画策定プロセスの母子保健対策等へ及ぼす影響、③思春期対策の現状と変遷、④市町村健やか親子 21 策定における住民、住民組織・関係機関との関わりと策定後の実際の取り組みにおける関連、⑤市町村の妊娠期・乳幼児期への支援等の取り組みが母親の QOL に及ぼす効果、⑥県型保健所の支援が市町村の「健やか親子 21」推進に及ぼす影響、⑦市町村別合計特殊出生率の規定要因。

3. 母子保健 MIS（マーケティング・インフォメーション・システム）の構築：本研究の中心課題である母子保健 MIS の構築については次の点を検討した。

①市町村における母子保健データの収集・利活用状況についての検討：「市区町村における母子保健データの収集・利活用状況に関する調査」を全市町村・特別区を対象に実施した。回収率は 85.8%。この数年で電子メールやウェブ閲覧などの IT 環境は劇的に改善しており、日常業務にもコンピュータが必要不可欠となっている状況が明らかになった。しかし、乳幼児健診で収集されたデータについては集計・分析や利活用は十分に行われていなかった。

②市町村における母子保健データの収集・利活用状況についての検討：母子保健情報の収集・利活用システムを運用していくために必要な 2 つのツール（①データを電子化するためのソフト（「母子保健情報データベース」）、②集計データの利活用方法についてのマニュアル（「母子保健

データ利活用マニュアル))の開発を行った。データベースソフト「母子保健情報データベース」は情報システム業者と共同し、Microsoft Access を用いて開発を行った。「母子保健情報データベース」は乳幼児健診のデータを入力できるだけでなく、主な項目について自動で集計結果が出力されるようにした(分析・指導ソフトウェア)。「母子保健データ利活用マニュアル」では、乳幼児健診で得られるデータのうち主な 25 項目について、集計方法や「保健所から市町村への還元方法」、「市町村における利活用方法」を提示した。

③愛知県知多半島エリアにおける乳幼児健診の個別データ集積システムモデルの構築に関する検討：愛知県知多保健所管内の 4 自治体と同保健所において、乳幼児健診(乳児、1 歳 6 か月児、3 歳児)で得られた匿名化された個別情報を、県型保健所の業務として収集、分析することにより、①県型保健所が行う情報分析、還元の有用性、②乳幼児健診の結果をデータベース化していない保健センターへの支援、③既に自治体独自のデータベースを構築している保健センターについて、その情報を県保健所に報告するための手続きについて明らかにした。

③母子保健情報の利活用をめざした全国システムの展開に関する総合的検討：

母子保健情報を利活用するためのモデル・システムを将来的に全国展開していく際に、どのようなクリアすべき課題が存在するかを検討し、「論点整理」としてまとめた。

④「健やか親子 21」中間評価で取り上げられた課題についての検討：健やか親子 21 に関する研究として、中間評価で注目を浴びた課題を中心に、健やか親子 21 「マタニティ・マーク」の認知度、エジンバラ産後うつ病質問紙票(以下 EPDS)、思春期までの育ちを視野に入れた質問紙調査、幼稚園における学校保健の現状と課題について検討をおこなった。

4. 妊娠・出産と母子の長期的経過についての縦断研究：2005 年度までに行われてきた「妊娠・出産と母子の長期的経過についての縦断研究」を継続する形で研究を進めた。昨年度までに本研究のデータを用いて、出産体験を定義し、定量的に評価しえるようなスケール化を作成したが、昨年度末に実施した研究班の班会議において、尺度の作成方法およびその適用方法について修正すべき点が挙げられた。そこで、今年度はそれらの指摘を踏まえ、主に「①5 回目、6 回目のフォローアップ調査の実施」、「②出産体験の定量的な評価に関する文献レビュー」、「③出産体験尺度の作成」の 3 つについて実施した。

IV. 結論 1. 公式ホームページは、健やか親子 21 推進のためのメインの情報源として、定着していることが示された。2. 地域の母子保健活動を母子の健康指標のみならず連携などに関する指標およびモニタリングシステムの必要性が確認された。3. 母子保健情報収集と活用のシステム構築に必要なソフトウェアを開発し、その実行可能性を検討した。また、保健所等が分析して指導するためのソフトウェアを開発した。市町村の IT 化の普及に伴い、このような情報収集システムの導入は可能であるが、それらを分析、活用するための啓発研修が必要である。4. 出産体験を定義し、定量的に評価しえるようなスケールの修正とフォローアップ調査の実施した。



## 班員・担当者一覧

	氏名	所属機関	職名
主任研究者	山縣 然太郎	山梨大学大学院医学工学総合研究部社会医学講座	教授
分担研究者	岩室 紳也	ヘルスプロモーション研究センター	センター長
	岡村 智教	滋賀医科大学社会医学講座（福祉保健医学）	助教授
	尾崎 米厚	鳥取大学医学部社会医学講座環境予防医学分野	助教授
	尾島 俊之	浜松医科大学 健康社会医学	教授
	島田 美喜	東京慈恵会医科大学医学部看護学科	助教授
	谷原 真一	福岡大学医学部衛生学教室	助教授
	仲宗根 正	沖縄県福祉保健部	保健衛生統括監
	中村 敬	日本子ども家庭総合研究所	部長
	福永 一郎	中間法人 保健計画総合研究所	所長
	櫃本 真聿	愛媛大学病院医療福祉支援センター	助教授
	松浦 賢長	福岡県立大学看護学部 地域・国際看護学講座	教授
	三砂 ちづる	津田塾大学学芸学部国際関係学科	教授
	山崎 嘉久	あいち小児保健医療総合センター 保健室	室長
	山中 龍宏	緑園こどもクリニック	院長
研究協力者	池田愛美	愛仁会看護助産専門学校助産学科	
	市川香織	千葉大学付属病院	
	伊藤多恵子	愛仁会看護助産専門学校	
	糸数 公	沖縄県北部福祉保健所	
	犬塚君雄	愛知県中央児童・障害者相談センター	
	内田 薫	大阪市港区保健福祉センター	
	梅田奈津子	千葉県印旛健康福祉センター	
	甲斐友佳	千葉県印西市中央保健センター	
	加藤恵子	愛知県半田保健所	
	加藤基	愛知県知多保健所地域保健課	
	川合美穂子	愛知県知多保健所地域保健課	
	北川美香	大府市保健センター健康推進課	
	北野淑恵	愛知県半田保健所	
	久野一恵	西九州大学健康栄養学科	
	倉本孝子	愛仁会看護助産専門学校	
	栗本洋子	愛知県知多保健所地域保健課	
	後藤文枝	東海市しあわせ村 保健福祉課	
	小松原かおり	京都教育大学附属幼稚園	
	近藤尚己	山梨大学大学院医学工学総合研究部社会医学講座	
	笹井康典	大阪府健康福祉部	
佐藤千織	千葉県柏健康福祉センター		
澤田光江	常滑市保健センター		

	氏名	所属機関	職名
研究協力者	澁谷いづみ	愛知県半田保健所	
	嶋根卓也	国立精神・神経センター精神保健研究所薬物依存研究部	
	下園美保子	奈良県下市町健康増進課	
	神寶尋子	愛仁会看護助産専門学校助産学科	
	鈴木 茜	千葉県印西市中央保健センター	
	鈴木孝太	山梨大学大学院医学工学総合研究部社会医学講座	
	鈴木牧絵	千葉県酒々井町保健センター	
	鈴木真理子	千葉県印旛健康福祉センター	
	高柳貴久子	千葉県酒々井町保健センター	
	竹市由紀子	愛知県知多保健所地域保健課	
	竹原健二	筑波大学大学院人間総合科学研究科	
	竜岡久枝	滋賀医科大学大学院医学系研究科	
	田中太一郎	山梨大学大学院医学工学総合研究部社会医学講座	
	田辺美由紀	愛仁会看護助産専門学校助産学科	
	谷川紗知子	千葉県印西市中央保健センター	
	田上豊資	高知県中央東福祉保健所	
	田堀有希	愛仁会看護助産専門学校助産学科	
	玉腰浩司	名古屋大学大学院医学系研究科 公衆衛生学	
	柘植由美	東海市しあわせ村 保健福祉課	
	土屋厚子	静岡県保健福祉部疾病対策室	
	藤内 修二	大分県福祉保健部健康対策課	
	長瀬博文	富山県高岡厚生センター射水支所	
	中野 郁	千葉県酒々井町保健センター	
	野間裕子	愛仁会看護助産専門学校	
	端谷 毅	日本赤十字豊田看護大学	
	樋口善之	福岡県立大学看護学部地域国際看護学講座	
	日隈桂子	玖珠町保健福祉課	
	福島富士子	国立保健医療科学院公衆衛生看護部	
	福田展之	岡山県保健福祉部健康対策課	
	増本綾子	愛仁会看護助産専門学校	
	松田由佳	阿久比町保健センター環境衛生課	
	真名子香織	西九州大学健康栄養学科	
	三國和美	宮城大学看護学部	
	水野歩美	知多市保健センター市民福祉部	
薬袋淳子	国際医療福祉大学 在宅地域ケア研究センター		
安田 梓	大阪市南港光小学校		
山岡清美	愛仁会看護助産専門学校助産学科		
山口智佳子	奈良教育大学附属幼稚園		
山田七重	山梨大学大学院医学工学総合研究部社会医学講座		
山野恵美子	奈良県医師会看護専門学校		

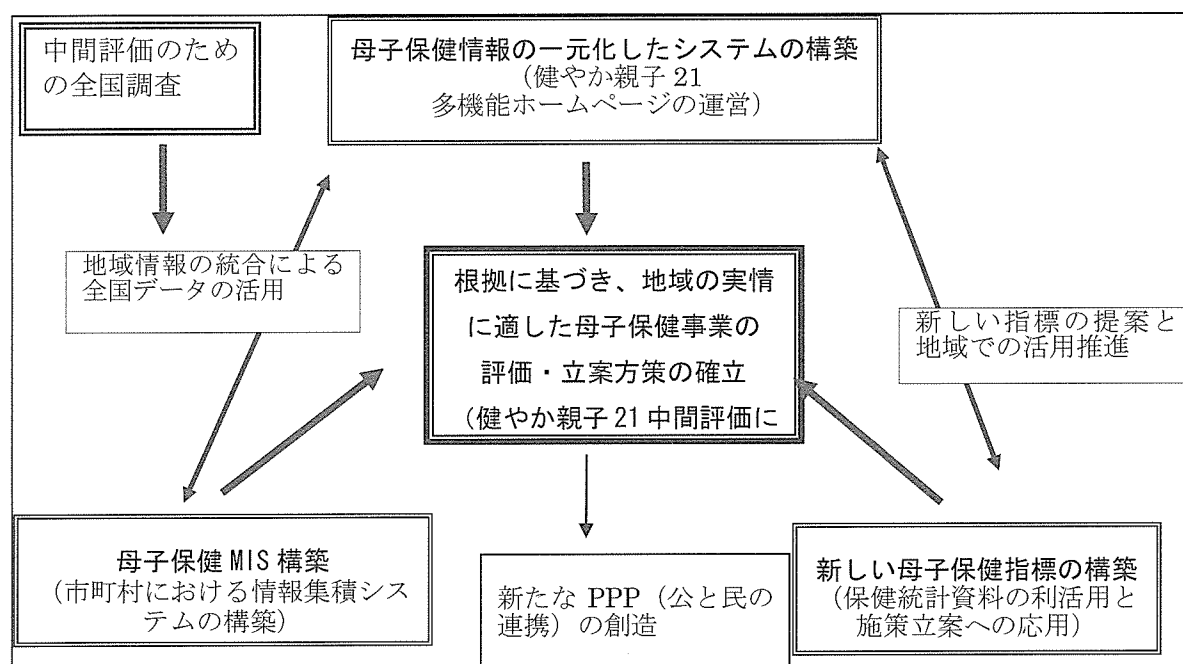
	氏名	所属機関	職名
研究協力者	山本田鶴子	愛知県知多保健所地域保健課	
	吉岡名保恵	山梨大学大学院医学工学総合研究部社会医学講座	
	渡辺多恵子	常総市水海道保健センター	
	和田恵子	名古屋大学大学院医学系研究科 公衆衛生学	

## A. 研究目的

21 世紀初頭における母子保健上の重点課題への取り組み指針として策定された「健やか親子 21」を推進するためには、新たな母子保健の課題に関する現状把握、それに基づく母子保健事業の見直し・再構築が重要であるが、そのためには母子保健情報をいかに有効に活用するかがカギである。

また、地方自治体等の行政機関は、多方面にわたる課題に対して均一で遺漏のないサービスの提供を前提的原則として求められているため、重点課題を定め、効果的・効率的活動指針を立案・実施することが必ずしも容易ではない構造的特徴がある。

以上のような背景のもと、本研究の目的は母子保健情報を 3 つの視点から見直し、情報の収集・利活用におけるシステムの開発と構築を目指すものである。同時に、施策立案およびそのフィードバックを目指したマーケティングリサーチの視点から、母子保健情報に関する収集および利活用システムを新たに開発もしくは再構築を行うものである。



## B. 研究方法と結果

平成 18 年度はこれまでの成果をもとに、以下の 4 点について研究を行った。

1. 「健やか親子 21」の公式ホームページの運営・発展
2. 健やか親子 21 の中間評価に関する総合分析
3. 母子保健M I S（マーケティング・インフォメーション・システム）の構築
4. 妊娠・出産と母子の長期的経過についての縦断研究

以下、各内容について方法と結果の概略を示す。

### 1. 「健やか親子 21」の公式ホームページの運営・発展

#### 1-1) 健やか親子 21 公式ホームページの展開

2001 年度より構築・運営してきた健やか親子 21 公式ホームページの運営を引き続き行った。ホームページへのアクセス数は確実に増加し、その後凹凸はあるが、本ホームページを周知してもらう目的は達成できたと考えられる。また、取り組みのデータベースは、2003 年度にデータの量質、及び、システムの使いやすさ等の見直しを行い新たなデータベースシステムを確立した。今年度は、市町村の合併に伴い、登録された事業の整理が行われ、新規事業登録、及び既存事業の修正、追加は約 400 件であった。2007 年 3 月 18 日現在の事業登録数は 3,623 件である。2004 年度に続き第二弾として今年度も取り組みのデータベースに登録された事業を本研究班の専門家が評価したことで、全国母子保健担当者からの問い合わせも多くなりアクセス数の増加傾向に繋がった。また、この優秀事業を検索できるシステムに再構築したことで、活用度の高い取り組みのデータ

ベースとして利用されることが示された。

#### 1-2) 「健やか親子 21」ホームページの「取り組みのデータベース」登録事業をもとにした「セレクト 2006」の作成

公式ホームページ上の「取り組みのデータベース」がより一層活用され、他事業との比較を通じた、事業計画の立案、および実施・評価が促進されるべく、登録されている事業の中から、母子保健活動に特に参考になる先駆的かつユニークな事業を選抜し、「セレクト 2006」を作成した。今回は、「セレクト 2004」発行以後の 2005 年から 2006 年に登録された全 730 件の事業から、乳幼児健診などの通常の事業、「健やか親子 21」の包括的な計画などをのぞき、先駆性、ユニーク性、充実性を考慮して最終的に 43 件の事業を選抜、「セレクト 2006」を発行した。

選抜の課程を通じて、「前回セレクトされた事業が多く市の町村で行われようになっていること」「子育て NPO や高齢者との協働事業、外国人などマイノリティーに対する子育て支援が充実してきていること」が明らかになった。同時に、事業をおこなう上で、事業評価を行って科学的根拠(エビデンス)を創出することの必要性など、留意すべき課題も認識された。

#### 1-3) 健やか親子 21 メーリングリストの運営

全国の母子保健関係者が、日常業務について相互に情報提供、意見交換を行える場を提供することを目的として、2003 年 2 月より母子保健関係者を対象とした「健やか親子 21 メーリングリスト」を運営して折り、今年度も引き続きその運営を行った。2007 年 2 月末現在の累積登録者数は 226 名で、職種

としては保健師が最も多く、ついで、医師である。助産師、養護教諭、理学療法士、学生等も加わっている。投稿数には変動があるが、継続的に活用されている。主に情報や意見の交換に利用されている。本研究班における研究課題についての意見を求める場としても利用している。

## 2. 健やか親子 21 の中間評価に関する総合分析

新たな母子保健指標の構築に資するため、平成17年度に実施した健やか親子21の指標についての全国調査の結果を総合的に解析して母子保健事業の実態を分析、評価した。

具体的には以下の8つの内容について、検討を行った。

- 2-1) 母子保健計画策定体制に関する因子と現在の母子保健活動の取り組み
- 2-2) 次世代育成支援行動計画策定プロセスの母子保健対策等へ及ぼす影響
- 2-3) 思春期対策の現状と変遷
- 2-4) 市町村健やか親子 21 策定における住民、住民組織・関係機関との関わりと策定後の実際の取り組みにおける関連
- 2-5) 市町村の妊娠期・乳幼児期への支援等の取り組みが母親のQOLに及ぼす効果
- 2-6) 県型保健所の支援が市町村の「健やか親子 21」推進に及ぼす影響
- 2-7) 市町村別合計特殊出生率の規定要因の検討 ～市町村の母子保健活動との関連に着目して～
- 2-8) 地域における母子保健活動の評価に関する研修会の実施

## 3. 母子保健MIS（マーケティング・インフ

### ォメーション・システム）の構築

市町村における母子保健統計情報は年度末に各都道府県が取りまとめて報告されているが、その収集は必ずしも効率よく行われているわけではない。また、これらの情報が母子保健行政に活用されるには、知りたい情報をいち早く知ることができなければならないが、これを実現するシステムを有している自治体は皆無に等しい。市町村における母子保健統計情報を効率的に、かつ必要に応じて新規情報も含めて収集でき、さらにこれらをリアルタイムでの利活用できる一種のMIS（マーケティング・インフォメーション・システム）を構築するために、下記の研究を実施した。

#### 3-1) 市町村における母子保健データの収集・利活用状況についての検討

市区町村におけるIT化整備状況や母子保健データの電子化状況・利活用状況などについて明らかにするために、「市区町村における母子保健データの収集・利活用状況に関する調査」を全市町村・特別区を対象に実施した。1,581の市町村から回答が得られ、回収率は85.8%であった。この数年で電子メールやウェブ閲覧などのIT環境は劇的に改善しており、日常業務にもコンピュータが必要不可欠となっている状況が明らかになった。しかし、乳幼児健診で収集されたデータについては集計・分析や利活用が行いやすいようにきちんと入力されているとはいえ、分析も十分に行われていなかった。乳幼児健診で収集されたデータを利活用するために「集計法や活用法を示したマニュアル」や「自動解析ソフト」が必要とする回答が全体の約6割あり、本研究班で現在開発中のこれらのツールを今後、広く普及していくことが重要であると考えられた。また、母子保健データの集

計・分析に関して、市町村から県や保健所への期待も大きく、今後は保健所や県、大学などの意識も調査する必要があると思われる。

### 3-2) 市町村における母子保健データの収集・利活用状況についての検討

本研究班では「母子保健情報の収集・利活用システム」の一つのモデルとして、市町村で得られた乳幼児健診データを電子化して管理し、保健所にて管内市町村分の電子化データをまとめて集計・解析し、市町村、さらには住民へと還元するというものを提示している。今回、このモデルシステムを運用していくために必要な2つのツール(①データを電子化するためのソフト(「母子保健情報データベース」)、②集計データの利活用方法についてのマニュアル(「母子保健データ利活用マニュアル」))の開発を行った。

データベースソフト「母子保健情報データベース」は情報システム業者と共同し、Microsoft Access を用いて開発を行った。

「母子保健情報データベース」は乳幼児健診のデータを入力できるだけでなく、主な項目について自動で集計結果が出力されるようにした。

「母子保健データ利活用マニュアル」では、乳幼児健診で得られるデータのうち主な25項目について、集計方法や「保健所から市町村への還元方法」「市町村における利活用方法」を提示した。

今後、これらの2つのツールについて実際にいくつかの市町村で使用して修正・改善を行い、多くの市町村・保健所に広く普及させていくことが重要である。

### 3-3) 愛知県知多半島エリアにおける乳幼児健診の個別データ集積システムモデルの構

### 築に関する検討

愛知県知多保健所管内の4自治体と同保健所において、乳幼児健診(乳児、1歳6か月児、3歳児)で得られた匿名化された個別情報を、県型保健所の業務として収集、分析することにより、①県型保健所が行う情報分析、還元の有用性の検証について検討した。あわせて、②乳幼児健診の結果をデータベース化していない保健センターへの支援、③既に自治体独自のデータベースを構築している保健センターについて、その情報を県保健所に報告するための手続きについても検討した。

乳幼児健診(3・4か月児、1歳6か月児、3歳児)の匿名化個別データに対する保健所への四半期ごとの報告が、平成18年10月～12月期より管内2市から4市に拡がり、管内の全自治体との運用となった。これは管内全自治体と県保健所との個別情報に基づいた集積、分析と還元を行う母子保健 MIS (Marketing Information System) の基本部分の実用化である。

同管内では、保健所主導で各自治体での健診時の判定基準や問診項目についての見直しや議論の共有化など事業展開への模索も開始された。母子保健 MIS の運用は、情報集約の質の向上のみならず、評価に基づいた保健事業展開につながるものである。

### 3-3) 母子保健情報の利活用をめざした全国システムの展開に関する総合的検討

母子保健情報を利活用するためのモデル・システムを将来的に全国展開していく際に、どのようなクリアすべき課題が存在するかを検討し、それを「論点整理」としてまとめる作業を平成17年度に行った。「論点整理」について、研究期間においてどこまでを

クリアし、どのような課題が残っているのかについての検討を今年度、実施した。

具体的には

- ・モデル・システム運用にあたって乳幼児健診時において取り入れるべき新しい時代に向けた問診項目の開発（完成）、健診項目の整理（完成）、事故オプション項目の開発（完成）
- ・3歳児健診以降、就学時健診以前の幼児期における、健康観察項目（問診）の開発（試作）
- ・食育の観点から、健やかな親子の育ちを支援するための問診項目、エビデンスの検討
- ・昨年度開発したバインダ式（母子保有式）母子保健情報記録ノートについての、その住民（ユーザ）評価について
- ・愛知県阿久比町にて本分担任が改良に取り組んだ、新しい母子保健情報システムのデータベースの概要について、保健師の視点からの考察

を行った。

### 3-4) 「健やか親子 21」中間評価で取り上げられた課題についての検討

健やか親子 21 に関する研究として、中間評価で注目を浴びた課題を中心に、以下の4つを研究課題として研究を実施した。

#### ① 健やか親子 21 「マタニティ・マーク」の認知度に関する研究：

病院・助産院に通院する妊婦 340 名を対象に自記式質問紙を用いて調査を実施した。その結果、半数以上の人健やか親子 21 マタニティマークを知っていたが、そのグッズや掲示施設を利用している人は少なく、利用していても効果が実感できなかった人が多いことが分かった。しかし、

多くの妊婦が健やか親子 21 マタニティマークの普及を希望していることが分かった。

#### ② エジンバラ産後うつ病質問紙票（以下 EPDS）についての研究：

A 県 B 市において、乳児健診時における EPDS を用いた、EPDS 得点の分散や関連因子について調査した。その結果、得られた知見は以下のとおりであった。1) 乳児健診時における EPDS9 点以上の高得点の割合は 5.7%であった。2) EPDS 得点の平均の差がみられたものは、以下の 5 項目であった。3) EPDS 得点 (8 点以下 - 9 点以上) との関連がみられたものは、「精神科既往の有無」「孤立した育児環境の有無」「経済的な不安の有無」の 3 項目であった ( $p < 0.01$ )。

#### ③ 思春期までの育ちを視野に入れた質問紙調査：

千葉県印旛保健所管内市町村において、3歳児を持つ母親を対象にした、思春期までの育ちを視野に入れた質問紙調査をおこなった。例えば以下の 2 点が明らかになった。1. 地域のお祭りや行事に参加しているものは 71.6%であった。出生順位別にみると、「第 1 子」が 63.9%、「第 2 子以上」が 80.7%であり、第 1 子よりも第 2 子以上の保護者のほうが地域のお祭りや行事に参加していた ( $p < 0.01$ )。2. 性に関する話を子どもとしているものうち会話の内容として多かったものは、「汚い手で性器を触らない」は 68.5%、「綺麗に性器を洗う」は 65.0%、「性器を隠しましょう」は 43.0%であり、3歳児における家庭での性教育は、生活習慣確立への一助を担っていると考えられた。

#### ④ 幼稚園における学校保健の現状と課題について検討

幼稚園養護教諭のホームページ内にある

掲示板での幼稚園の養護教諭や保健職員などの情報交流の内容から、幼稚園における学校保健の現状と課題について検討し、「幼稚園における学校保健の現状と課題 5 項目」についてまとめた。

#### 4. 妊娠・出産と母子の長期的経過についての縦断研究

2005 年度までに行われてきた「妊娠・出産と母子の長期的経過についての縦断研究」を継続する形で研究を進めた。昨年度までに本研究のデータを用いて、出産体験を定義し、定量的に評価しえるようなスケール化を作成したが、昨年度末に実施した研究班の班会議において、尺度の作成方法およびその適用方法について修正すべき点が挙げられた。そこで、今年度はそれらの指摘を踏まえ、主に「①5 回目、6 回目のフォローアップ調査の実施」、「②出産体験の定量的な評価に関する文献レビュー」、「③出産体験尺度の作成」の 3 つについて実施した。

##### (倫理面への配慮)

情報システムについては、原則として個人情報とは扱わず、集団情報の集積、活用を目的とする。介入研究については、参加の同意を文書で取り、不参加者についても決して不利益が生じないように配慮する。また、この介入研究の過程で得られた個人情報については、その保護に万全の体制で望み、原則として当該フィールドにおける行政機関内においてコード化した情報のみを研究申請者は使用するものとする。これらは「疫学研究に関する倫理指針」(厚生労働省、文部科学省 2002 年)に準拠した対応である。

#### C. 考察

18 年度に完成を予定していた母子保健情報システムを完成させ、実行可能性を検証するなど、ほぼ計画通りの成果を得た。

1. 「健やか親子 21」の公式ホームページの運営・発展について、公式ホームページの運営、アクセス数の分析結果からは、同ホームページが健やか親子 21 の情報拠点としての位置づけが、順調に公に認知されてきていると考えられた。今後も継続的に本ホームページの情報の集積・評価・利活用を一元化したウェブ・システムとしての評価を行っていく予定である。

2. 健やか親子 21 の評価指標について、既存資料および既存の研究班で把握できない指標が多くあることが明らかとなり、これらの指標のモニタリングの必要である。また、母子保健の健康に関する指標だけでなく、連携などの新しい指標も母子保健活動に必要であると思われる。

3. 母子保健情報収集と活用のシステム構築に必要なソフトウェアを開発した。また、これらを保健所等で分析指導するためのソフトウェアも開発した。全国調査により、これらのシステムの活用に必要なインフラの整備はできていることが明らかになったが、それを使いこなせていなかった。システムの導入と同時にそれら具体的な活用マニュアルを提供し、研修することが必要である。また、乳幼児健診を利用した母子保健情報の収集と活用について愛知県の市町で実践調査から得られた知見を母子保健 MIS の初期構築のための基本情報としたが、さらに、他の地域でも検討する必要がある。

4. 出産の評価は多様な視点があるが、育児に視点をおいた出産の評価が重要であり、フォローアップ調査によって明らかになることが期待される。



## D. 結論

1. 公式ホームページの運営、アクセス数の分析に加えて、取り組みのデータベースのカスタマイズを行い、健やか親子21の情報の拠点とした。
2. 健やか親子21の指標について、既存資料および既存の研究班で把握できない指標について、モニタリングが必要である。
3. 母子保健情報システムのソフトウェアを完成させ、保健所等での分析指導のソフトおよびマニュアルを完成させた。

## E. 研究発表

### 1. 論文発表

- 山縣然太郎：【TOPICS】マタニティマークのデザイン決定. 保健師ジャーナル 62 (5) : 411p. 2006. 5
- 山縣然太郎：育児支援. 周産期医学必修知識 第6版 (周産期医学 第36巻増刊号) : 945-947. 東京医学社. 2006. 12
- 山縣然太郎：母子保健対策—健やか親子21と次世代育成対策推進法. 図説 国民衛生の動向 2006 : 54-55. 財団法人厚生統計協会. 2006. 10.
- 鈴木孝太, 山縣然太郎：少子化の現状と政府の施策 「健やか親子21」からの展開とつながり. 臨床栄養 109 (2) : 182-186. 2006. 8
- 鈴木孝太, 薬袋淳子, 成順月, 田中太一郎, 山縣然太郎：都道府県における母子保健統計情報の収集・利活用に関する研究. 厚生指標 54 (2) : 14-17. 2007. 2

### 2. 学会発表

- 真名子香織, 久野一恵, 松浦賢長, 山縣然太郎：幼児期における遊びを中心とした生活習慣の相互関連に関する研究 第65回日本

公衆衛生学会 (富山) 2006年10月

- 甲斐友佳, 鈴木茜, 渡辺多恵子, 佐藤千織, 山崎嘉久, 松浦賢長, 山縣然太郎：健やか親子21 中間評価のための産後うつ病スケール (EPDS) 得点の分散に関する研究 第65回日本公衆衛生学会 (富山) 2006年10月

- 久野一恵, 真名子香織, 松浦賢長, 山縣然太郎：食育の観点からみた生活習慣と親の知識・意識の関連 第65回日本公衆衛生学会 (富山) 2006年10月

- 鈴木茜, 松浦賢長, 山縣然太郎：保護者保有型母子保健ガイドブックの開発に関する研究 第65回日本公衆衛生学会 (富山) 2006年10月

- 渡辺多恵子, 鈴木茜, 松浦賢長, 山崎嘉久, 山縣然太郎：妊娠届出時に集積すべき問診情報に関する研究 第65回日本公衆衛生学会 (富山) 2006年10月

- 佐藤千織, 鈴木茜, 渡辺多恵子, 甲斐友佳, 山崎嘉久, 松浦賢長, 山縣然太郎：妊婦の母性健康管理指導事項連絡カードの周知と使用に関する研究 第65回日本公衆衛生学会 (富山) 2006年10月

- 山縣然太郎, 柳澤正義：「健やか親子21」中間評価の概要 第53回日本小児保健学会 (山梨). 2006年10月

- 田中太一郎, 山崎嘉久, 松浦賢長, 薬袋淳子, 鈴木孝太, 近藤尚己, 山縣然太郎：健やか親子21の中間評価を踏まえた母子保健情報システムの構築 第53回日本小児保健学会 (山梨). 2006年10月

- 第17回日本疫学会学術総会シンポジウム. 2007年1月26日. 広島市南区民文化センター

山縣然太郎：「母子保健における疫学研究成果と将来展望」

### 3. 講演会・研修会

- 「健やか親子おきなわ 2010」推進研修会  
【2006年11月14日 13:30-17:00. 浦添市  
社会福祉センター】  
山縣然太郎：「健やか親子 21」中間評価及び  
推進について
- びわこ健康づくり研究会【2006年10月21  
日 10:00-12:00. 滋賀医科大学管理棟 2F 中  
会議室】  
山縣然太郎：「健やか親子 21」の中間評価を  
踏まえた今後の母子保健施策
- 第53回日本学校保健学会シンポジウム1「へ  
ルスプロモーションと学校保健」. 2006年11  
月11日午前. サポートホール高松  
山縣然太郎：シンポジスト「健やか親子 21  
の現状と課題」

## II . 分担研究報告書

## 2006 年度における健やか親子 21 公式ホームページの展開

薬袋 淳子

山梨大学大学院医学工学総合研究部社会医学講座

吉岡名保恵

山梨大学大学院医学工学総合研究部社会医学講座

山縣然太郎

山梨大学大学院医学工学総合研究部社会医学講座

本研究の一環として、2001 年度より構築・運営してきた健やか親子 21 公式ホームページの主な展開と、「取り組みのデータベース」について 2006 年度の展開を報告することを目的とした。

取り組みのデータベースは、2003 年度にデータの量質、及び、システムの使いやすさ等の見直しを行い新たなデータベースシステムを確立した。今年度は、市町村の合併に伴い、登録された事業の整理が行われ、新規事業登録、及び既存事業の修正、追加は約 400 件であった。2007 年 3 月 18 日現在の事業登録数は 3,623 件である。2004 年度に続き第二弾として今年度も取り組みのデータベースに登録された事業を本研究班の専門家が評価したことで、全国母子保健担当者からの問い合わせも多くなりアクセス数の増加傾向に繋がった。また、この優秀事業を検索できるシステムに再構築したことで、活用度の高い取り組みのデータベースとして利用されることが示された。

### I. 研究の目的

本研究班では、健やか親子 21 の推進を目指した、母子保健サービス実施の情報収集と供給体制の整備のために、健やか親子 21 公式ホームページを構築、運営している。2001 年 5 月に公開し、2007 年 3 月 18 日現在、約 45 万 2,000 件のアクセス数を達成している。「取り組みのデータベース」は、約 26,700 件のアクセス数を得ており、これらの詳細について報告することを目的とする。

### II. 研究の方法

「健やか親子 21 公式ホームページ」の主な展開内容と、「取り組みのデータベース」に登録された今年度の結果を分析した。

#### 1. ホームページの運営状況の把握

ホームページ管理担当者が更新の機会毎に、ホームページ内の更新履歴のページに日付及

び内容を記録している。取り組みのデータベース（町村・都道府県等における健やか親子 21 に関する取り組み）については、主たる管理者がデータ数等の記録・管理を行っている。これらの記録により、ホームページの運営状況について把握した。

#### 2. 取り組みのデータベースに登録された内容についてのまとめ

全国自治体から提供された、取り組み事業について事業掲載数を、都道府県別、母子保健国民運動計画課題別に把握した。

### III. 結果及び考察

#### 1. 健やか親子 21 ホームページの運営状況

更新は原則として、週 1 回以上行った。「健やか親子 21」に関連する情報として、SIDS 対策や虐待防止、母子保健関連など厚生労働省発表の報道資料や通知文へ重点的にリンクを行